

特集：2006年度日本数学会出版賞受賞者のことば

株式会社サイエンス社 刊「数理科学」

この度は、永い伝統と格式のある日本数学会様より出版賞を頂戴し、大変光栄に存じますと共に、本誌「数理科学」のような一般的には成り立ちにくい専門雑誌に対する、しっかりやりなさいという励ましと考え、誠に有難く存じております。

さて、受賞の言葉として昨年2月に数理科学が創刊500号を迎えました折、弊社社長の森平が記しました編集後記をアレンジし、披露させて頂きます。

雑誌の多くは3号雑誌です。まして学術専門誌を成り立たせ継続してゆくことはなまやさしいことではありません。本誌はこの4月で創刊515号ですが、まずは順調裡に今日を迎えることができましたのも、ひとえにその存在価値を認め御寄稿下さる先生方をはじめ読者・製作関係の方々の御支援と、企画・編集・営業に携わる担当者のたゆまぬ努力によるものと深く感謝致しますと共に感慨も又一入です。

本誌が創刊された頃はいわゆる応用数学分野の百花繚乱の時代でしたが、ここ数年はテーマ探しの難しい逆風の時です。しかしfollowの風も吹いてきています。本誌の対象読者の多くは学部・院生、研究者ですが近年大学院の充実により院生が増加し、その追い風にのるべく、数理科学の別冊としてSGCライブラリ=Library for Senior & Graduate Coursesなる一連のMookを既に46巻まで発刊し、好評をえて幅広い分野に展開しております。

515号と云えば43年ほどの春秋を重ねたことになります。半世紀の歴史も視野に入っ
て参りました。本誌はかつての愛読者が編集の任にあたっており(平勢耕介、伊崎修通、大溝良平の三名です)、本誌のあるべき姿についてのDNAはしっかりと受け継がれております。正に“継続は力”、雑誌自体がその生命力・継続力を創り出してきているようです。

今回の受賞を励みとし、新たな誌史の創造に益々精進して参る所存です。最後に、関係各位の一層の御支援を切にお願い致し受賞の言葉とさせて頂きます。有難うございました。

田島伸彦((株)サイエンス社取締役編集部長)